



てつがくカフェ

＝第72・73回＝

てつがくカフェとは？

「てつがくカフェ」は、わたしたちが普段、当たり前だと思っている事柄から、いったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いとして投げかけます。そして、ゆっくりお茶を飲みながら対話し、自分の考えを遅くすることの難しさや楽しさを体験するものです。

<https://www.smt.jp/projects/cafephilo/>

「てつがくカフェ」で行われるさまざまなイベントのスケジュールやこれまで開催されたイベントのレポートを閲覧できます。

助成：一般財団法人 地域創造

 **せんだいメディアテーク**
 仙台市青葉区春日町 2-1
 022-713-4483



「考えるテーブル てつがくカフェ」は、これまで9年にわたり震災に関連した哲学対話の場をひらいてきました。その多くは、毎回事前にテーマを設定（共有）し、参加者どうしの丁寧な対話をもとに、震災にかかわる問いや課題に答えるといふかたちのものですすめてきました。しかしながら、震災から9年目の今、その長い時間の経過とともに、それぞれの震災に対する考え方や関心のあて先、さらにはそれらに対する意識の強さにもさまざまな〈違い〉が生じつつあります。

そこで、「考えるテーブル てつがくカフェ」では、昨年度より、そのような個人々のあいだにある〈差異〉に、よりこまや

かに対応し、また被災地の今の空気感や気分、思いにもいっそう寄り添っていけるように、あえて事前にテーマを設けず、参加者の方々と毎回その場でテーマを決めながら対話を深めていくという方法を探ることにしました。

みなさんは今、震災以降をどのような思いで過ごしておられますか。その個人的な思いや問題や関心をひとりの内側で閉じてしまわずに、多くの人がともに考え、アクセスすることができるようなひとつの「テーマ」にまで展開させ、さらにそれを、他の参加者との哲学的な対話をとおしてさらに深めていきませんか。みなさま、ぜひご参加ください。

テーマは当日その場で参加者の方々と決めます。イベント冒頭に、関心のあるテーマを募りますのでご協力ください、



72回 2019年 11月3日(日・祝) いずれも 13:30-16:00
 73回 2019年 11月30日(土)

せんだいメディアテーク 7f スタジオ a
 申込不要・参加無料・直接会場へ

主催：てつがくカフェ@せんだい/せんだいメディアテーク
 お問い合わせ：mmp0861@gmail.com (てつがくカフェ@せんだい・西村)

メディア 「てつがくカフェ」は、せんだいメディアテークの事業「メディアスタディーズ」の一環として実施されています。
メディアーズ <https://www.smt.jp/projects/mstudies/>

前回てつがくカフェのレポート

第71回てつがくカフェ / 2019年8月18日 / メディアテーク7fスタジオa

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故から、9年目を迎えました。その月日の流れのなかで、震災についての考え方、意識、関心、関わりかた…などについて、一人一人の間に、細やかな〈違い〉があるように思います。この〈違い〉に、より丁寧に向き合っていけるように、昨年度から、その場に集った人たちと共に、テーマを決めるところから、てつがくカフェを始めています。

今回は、「表現とは何か？」というテーマのもとで、対話をしていくこととなりました。震災に関わらず、あいちトリエンナーレの「表現の不自由展」の展示中止といった、ホットな話題について語ってみたいという思いも、ここにはあったように思われます。

初めて参加をされた方からは、

「できれば、震災については話したくない」

といった発言がありました。もちろん、震災について語ることを無理に強いる必要はありません。その一方で、震災については全く話してはいけないと、語りを妨げることに、少々違和感を覚えてしまいます。大変難しい、琴線に触れるような話題ではありましたが、今回は、震災に触れるような話をしようとするときには、「震災については話したくない。」という思いを受け止めて、その方のお気持ちを尊重しつつ、お互いがお互いをおもんばかりのように、言葉を選んで交そうとする雰囲気が、生まれていたように思います。

その雰囲気のなかで、震災について、直接に触れずとも、ゆるやかに震災と繋がるように語られた言葉もありました。震災を経験した人同士だからこそ、共有できる「辛さ」というものがあり、共有することで気持ちが楽になることもあるのではないかと。また、心にため込んでいたことが、何かをきっかけにして、大粒の涙が溢れるように、ぶわっと表出してしまうこともあるのではないかと。

戦争を経験した方からの発言です。戦争については、同じ時代を生きた人同士でなければ、話をしても、深いところでは通じたと感じられない。でも、真摯に話をしていくことで、何か伝わるものがあるかもしれない。それは、にじみでるようなものではないかと。

震災から数年後、東京で、原発事故後の福島についての展示を見たときに、なぜか不快感が湧きあがってきた経験についてのお話もありました。そのお話からは、「よい表現とは？」「わるい表現とは？」といった切り口や、出来事と時間との関係性についての疑問が、生まれてきました。

また、「表現の自由」という言葉には、公的な意味合いがこめられていること。表現されたものを受け止めるためにも、受け止める側が、チャンネルをひらいておくことも大切ではないかと、といった発言もありました。

その後、少しの休憩を挟みつつ、次は「表現とは何か？」を考える上で、重要になると思われるキーワードをあげていきます。

〈キーワード〉

- ・自分
- ・伝わる
- ・通じる
- ・伝える／伝わる
- ・受けて
- ・あて先
- ・不都合

そして、キーワードの意味を吟味しつつ、「表現」についての定義をこしらえていきました。

〈定義〉

- ・表現の自由を守るためには、有形無形のスポンサー次第
- ・表現とは、送り手の考えをあて先に伝える手段
(できるならば通じる状況にしたい)

処暑の頃とはいえ、まだまだ厳しい暑さにも関わらず、お越しいただいたみなさま、本当にありがとうございました。次回のでつがくカフェは、11月3日(日)13:30~16:00に開催とします。次回も、震災という経験を背景にしつつも、集った方々と共にテーマを決めるところから、対話を始めていきたいと思っております。お待ちしております。

(文責：てつがくカフェ@せんだい)